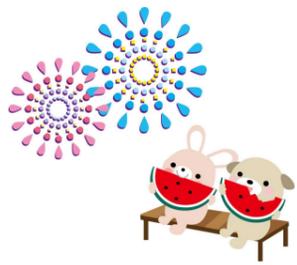




2018年度 年主題「イエス様とともに生きる～愛の交わりの中で」

0・1・2歳児 7月主題 「ふれる」
月のねがい
◎保育者の祈る姿にふれ、イエス様を身近に感じる
◎水や砂、土に触れてあそぶ
◎保育者と一緒に夏の遊びを楽しむ
◎沐浴や温水あそびをして、気持ちよく過ごす

3・4・5歳児 7月主題 「交わる」
月のねがい
◎生活の中で賛美したり祈ったりする気持ちが生まれ、その気持ちを表す
◎好きな遊びを深めながら、生き物や友だちとの交わりが楽しくなる
◎自分の思いや意見を伝えようとする
◎体を洗ったり、着替えたり、木陰で休んだりすることを快く感じる



やる気を引き出す言葉

さあ！7月です。わくわくしますね。夏祭り、年長児のお泊まり保育、そして海あそび！子どもたちは、楽しみにしている反面初めての事に不安だったり、気持ちが落ち着かなかったり・と心も騒ぎます。

そんなある日、またもやガリバーさんからの手紙がこすもす組へ届きました。

「私の仲間を助けてほしい」と。その仲間は、「緑の服を着た雨の大好きな子」とあり、みんな探し回り、とうとう見つけました。何気ない日常をちょっとした仕掛けで子どもたちはワクワクし、心躍らせます。それが、行く行くは生きる力に繋がっていくのだと信じながら子どもたちと過ごす毎日です。後日、ガリバーさんから「ガリバー村に招待したい」と、お泊まり保育への招待を受けた年長児です。

先月、私は、県私立幼稚園協会の主任会に参加しました。そこで、学んだのが「ペットーク」です。これは、今スポーツ界の中ではとても注目されており、「アメリカで監督やコーチが競技前に選手に向けて行う激励のメッセージ。短くてやる気が出て背中を一つ押しする言葉。」がペットークなのだそうです。言葉と体は一体で、言われたことを脳はイメージし、それが現実になり、マイナスな言葉は脳が反応し、そうならないでほしい方へ不思議と向かってしまうのだそうです。でしたらポジティブな言葉がけを日頃から意識していきましょう！という話でした。

なかなか難しいのですが、意識するのとしないのでは全然違います。ポジティブな言葉をたくさん使ってその子の持っている力をつまかく引き出せたらいいですね。

- ・忘れ物しないで→しっかり準備してね
- ・騒がないで→静かにね
- ・ポケットしないで→集中しよう！
- ・負けるな→全力で！

森山

今月の聖句

ひかりのこどもとしてあゆみなさい。

エペソ5:8

人間の出発点は創造神によって創られたことです。創世記には「神は土から人を像(かたち)ある者として造り、鼻から神の息(靈魂)を吹き込まれて、生きるものとなった。」(創世記2章7節)と記されています。したがって、人間の肉体は、いつかはまたもとの土に帰りますが、靈魂は永遠に不滅です。

冒頭の言葉、「光の子」の部分「神の子」と言い換えるなら「神の子らしく生きなさい」ということになりませんが、神の子らしく、光の子の方が広がり深さがあるような気がします。人間が神の子(光の子)として、神が望まれる世をつかっていけば、世界は平和となり、争いや憎しみもなくなり、まことに理想的な社会が生まれます。

「三つ子の魂百まで」。幼い時から、神の子として自分を尊び、他人を敬うことを身につけておけば、長じては、立派な社会人として世の中に必要な人材となります。ここに幼児教育の真骨頂があるのです。

牧師・前理事長 池田公栄

7月の行事予定

4日(水)	海遊び 4・5歳児・弁当日
5日(木)	海遊び 2・3歳児
6日(金)	七夕事業所訪問
7日(土)	夏祭り・弁当日(23号)
9日(月)	市営プール遊び(年中長児)
12日(木)	7月誕生会
21・22日	お泊まり保育(年長児)
19日(木)	1学期終園式(1号:午前保育)

8月の行事予定

1日(水)	夏期保育
21日(火)	夏期保育(8月誕生会)
未定	夏期おやぢ保育

新採用職員紹介

5月から保育教諭として加わりました**荷福結美子**です。主にもも組で小さいお友だちの担当をします。どうぞよろしくをお願いします。



はじける笑顔と水しぶき

今年、関東の方が一足先に梅雨明けとなりましたが、雨量が少なく貯水率も低いようです。農作物の生育のためにも、水不足が深刻にならないよう祈っています。さあ、いよいよ夏本番を迎えますね。いつものように猛暑が続くと老体には応えませんが、子どもたちの笑顔が一番はじける季節なので、鞭を打ちつつ楽しみたいと思います。

先週末まで、東京から教育実習生を受け入れておりました。他県の養成校に通う地元の実習生は良く受け入れますが、祖父母が本市の出身者とはいえず、東京からは初めてのことで少々驚きました。全く住んだこともない南の島での実習を希望するのは、何が彼をそこに駆り立てたのか…大いに興味をそそられていたようですが、その中で、「この保育のあり方ではないのか?」「どこが違う?」「自分の目指す保育者にはなれない」と彼は思ったそうです。どこか全然違う環境で実習をしてみたいと、依頼を決めかねていたようですが、同じように教育要領や保育指針を基に教育・保育課程を編成しつつも、大人の事情もあつて、実際の保育活動にはいろいろと制限が多いようです。

彼にとって衝撃的だったことは、子どもたちが一切警戒心なしに寄ってくること。子どもたちの欲求が優先されるあそびが展開されていること。保育活動が子どもの興味・関心を中心に進められること…だそうなんです。ということは、子どもが真ん中にいないということ? 私たちにとっては、日常的で当たり前のことでも、なかなか思うように実践できない世界もあることに気づかされました。そして、園内でクワガタやカブトムシ、サワガニ、ホタルたちと出会え、すぐに海に泳ぎに行ける環境に改めて感謝したいと思います。自分の仕事や将来を真摯に考えて行動している学生さんを久し振りに見ることでした。彼が思い描いている保育の世界は必ずあるので、絶対頑張つて探し当てて欲しいと願っています。

海や川、山や野原で走り回り、カニや小魚やカブトムシを追いかける。時にはロケットが飛んでいく姿を見上げる。人生の基盤となるこの時期を、家族や友だちと種子島で過ごす子どもたち…なんて素晴らしい時間を与えられたことか。どうぞ宝物のような瞬間を皆さんで楽しんでください。子どもたちのために今できることを、皆さんが共に整えてくださることに心から感謝いたします。この夏も子どもたちと共に暑さを乗り切ってください。

園長

～子どもとのコミュニケーション法～

前回に引き続き、お子さんとの簡単なコミュニケーション法をご紹介します。

<子どものしていることや、気持ちを言葉にして話す>
例えば、ボールを投げるときには「エイッ」、物を持ち上げるときには「ヨイショ」など日常的に使える場面はたくさんあります。

その他遊びの場面ではお子さんの様子を観ながら実況中継のように行動と気持ちを言葉にします。例えばお絵描きをしているとき「赤色鉛筆をもって…チューリップをかきます。かわいく描けた!次は…何色にしようか迷って…黄色にしました。そして…ひまわりを描きました。上手にできたな」など、親が注目してくれている幸福感の中で、その動作を楽しみ、物事への意欲を育むことができます。

また転んだときには「痛かったね」と、気持ちを受け止めて代弁しましょう。自分が持った嫌な感情も周りの人から認めて受け止めてもらえた経験の積み重ねは、他者との信頼関係を築く力になります。私たち大人も同じですね。そして助けてもらった経験は、他者を助ける力にもなっていきます。園でも、例えばおもしろいしてしまったお友だちがいたら、先生よりも素早くお着替えを取りに行つて渡してくれるお子さんがいます。そういう配慮のできるお子さんを背後で支えてくださっている方々にも感謝する思いです。

このように、子どもの理解に合わせたこの方法は、思いやりの心を育むとともに、言葉の意味や使い方のモデルになります。

<大人のしていることや、気持ちをことばにする>
例えば「お父さん、絵本を読もうかな」とか、ままごとをしながら「にんじん、切るよ」など言葉にすることで子どもの注意をひき、遊びの中で自然に表現の手本を示すことができます。「〇〇ちゃんもやりたいね」「もっと遊びたかったね」など、<子どもの気持ちを言葉にする>と合わせて使うことで「あなたとわたし」の理解や、共感性の発達を促す効果も期待できます。

子どもの反応をキャッチしながら、子どもにストレスがかからないコミュニケーションをしていくことで、子どもは安心して他者と関わり、自己肯定感を高め、集団の中でも長所を発揮できるよう成長していきます。

木口屋(心理士)

